

中部人懇通信 No.1

人権教育
主任対象

平成27年7月3日(金)に、人権教育主任を対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

講演『「ひとごと」から「わがこと」へ ～自己をみつめ、語り、他者とつながる人権学習～』
徳島県板野郡藍住町立藍住中学校教諭 森口 健司 氏

■森口健司さんの紹介

徳島県板野郡藍住町立藍住中学校教諭。大学時代、京都での被差別体験から教職への思いを強く持ち、1990年度徳島県の中学校教諭に採用される。当時より子どもたちの心に響く同和教育、「生徒が生徒を変える、語り合いの人権・部落問題学習」に取り組まれている。また、2003年度から3年間、徳島県教育委員会生涯学習課の社会教育主事として人権教育、人権啓発を担当。その後も広島大学や愛媛大学で人権教育の講座を担当されるなど学校教育、社会教育の場で活躍されている。



■講演の内容

森口先生には、「ひとごと」から「わがこと」へをキーワードに、同和問題を通して、自己の生き方やあり方を見つめ、語り、人と人がつながる人権学習について、映像や実践記録集「生きる絆」を使いながら講演をしていただきました。

- 子どもたちが、自らを語るにより、人権感覚・人権意識を高めていくことができる。自己実現をめざす人権学習に取り組むことが大切である。
- 教師としての原点である「教育は子どもと教師、互いの信頼と尊敬の中で行われる」を忘れてはならない。
- 言葉の力は強く、子どもたち自らが思いを語った瞬間、心が解放される。
- 子どもは子どもが変えていく。人間が人間を大切に作る関係を作り、1つ1つの授業を大事にしていく。

全体学習「人権教育主任としての役割」

講演に引き続き、森口先生にはファシリテーターとして全体学習を行っていただきました。参加者から思いを引き出しながら、人権教育について考えることができました。参加者からは、子どもたちの実態や自校の取組など、意見が次々と出され、人権教育主任として人権学習をどのように進めていくのか、再確認することができました。



【参加者の感想より】

- どういふ子どもに育てたいか、熱く願いをもつことや、「雨の日には雨の日の過ごし方がある」など自分の人生観や教師観を問う機会となった。
- 「子どもたちは、様々な悲しみの中で、傷みの中で生きている」という話があった。私のクラスの子も一人一人を見取ることが必要だと改めて感じた。
- 「人権学習は生き方が問われる学習」、「子どもの悲しみが見えないで、幸せが見えますか」など人権教育のめざすところの話が聞け、主任としてどう活動するべきかヒントをいただいた。
- 弱い立場に置かれがちな子どもに目を向け、全職員で支えられる職員集団づくりをしていきたいと思った。久々に同和問題を中心に据えた研修だった。
- 人権集会をする予定だが、子どもや教師の思いが語れる場の設定と雰囲気作りをしていき、昨年度の集会とは違う内容にしていきたいと思った。

【まとめ】

講演の中に、森口先生と卒業した教え子たちが談笑する映像がありました。そこには全体学習で部落差別に対する思いを語るにより、自分自身を変えることのできた男性の姿がありました。この男性のように自分の思いを語るためには大きな勇気をもつとともに、その思いを受け入れてくれる仲間が必要です。今回の懇談会で、本音で語ることでできる仲間づくり、学級づくりを土台として、人を人として大切に作る人権学習を進めていくことの大切さを学びました。様々な人権問題が「ひとごと」から「わがこと」に感じられるような人権学習を進めていきたい。

